

治験医総括レポート

被験者No.2:Y.Yさん

26歳、女性

症状の程度

中度～重度

販売店様用

撮取前	<ul style="list-style-type: none"> 肘関節、肩周囲から背中、前胸部にかけて乾燥肌、苔癬化局面、一部糜爛と出血を伴う掻破痕が認められた（病変はいずれも両側性）。 血液生化学検査では、ヤケヒョウダニ、コナヒョウダニ、ハウスダスト、スギ、ネコ皮膚、ヒノキに対し、アレルギー陽性、非特異的IgEは971IU/mlと異常高値を示した。
治療経過	<ul style="list-style-type: none"> 首から肩、背中にかけての潮紅、鱗痂皮を伴った乾燥皮膚病変は軽快し、全体的に赤味がとれ、鱗痂皮も軽減した。 鳥肌立ったような毛孔性角化は残存するものの、健常な皮膚への置換も見られるようになった。 肘窩の苔癬化はまだあるものの、幾分軽快していた。 血液検査において、IgE値は治療経過毎に漸減し、アレルギー検索項目ではブタクサに対し、アレルギー反応が陰性になった。 治療経過中、明らかな副作用の発現等を認めなかった。
検査所見	<ul style="list-style-type: none"> 服用前初診時においてブタクサRAST陽性であったが、服用後陰性化が見られた。 ほかのアレルギー陽性項目においてもRAST値の減少が認められた。 IgEは漸減傾向をみた。
総括・考察	<ul style="list-style-type: none"> 治療を追うごとに改善が見られた症例である。 自覚症状的には痒みが幾分治まった程度ということであったが、皮膚症状の改善は明らかで、特に症状が強かった肩から背中にかけての皮膚は潮紅が薄れ、鱗屑・痂皮の状態も改善、一部消失をみた。 血液検査でもIgEの漸減が認められた。 3ヶ月という短い期間の割りに、期待以上の成果が得られたと思われる。 長期的に投与することによって、更なる改善が望めるのではないかと期待する。

15

販売店様用



Fig.1
初診時上腕：
皮膚は硬く苔癬化局面を呈する



Fig.2
初診時頸部背側：
紅皮症様に紅潮し、苔癬化ならびに
紅色丘疹を認めた

16



Fig.3
初診時：
肩病変



Fig.4
11/22再診時：
肘関節部分接写

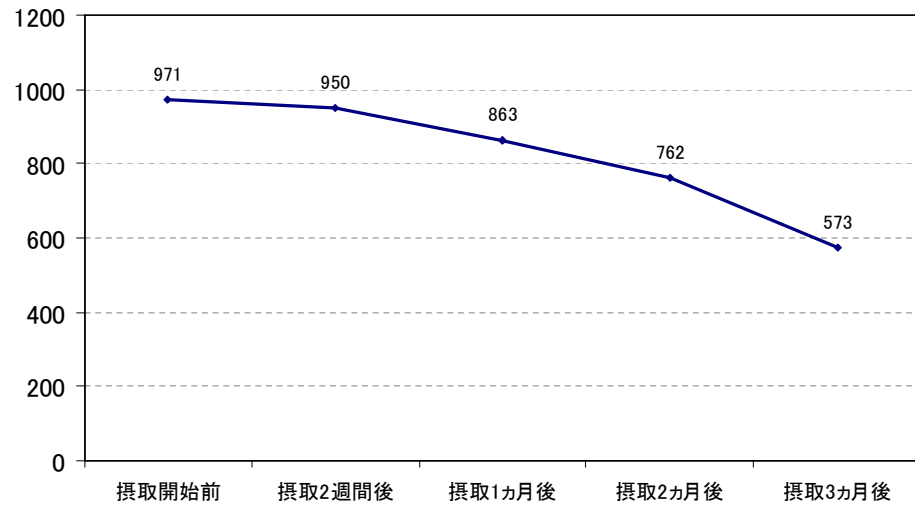


Fig.5
11/22再診時：
全体に肌の赤味がとれ、鱗痂皮も著
明に減少している



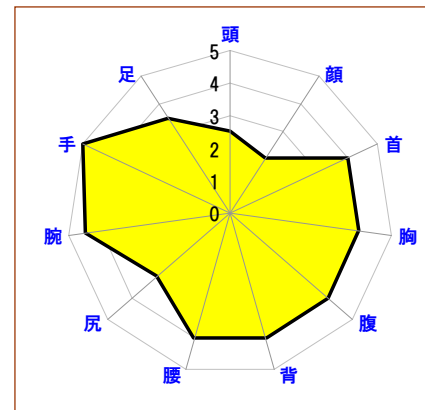
Fig.6
11/22再診時：
初診時に比べ、健常な皮膚への置換
も見られた

IgE

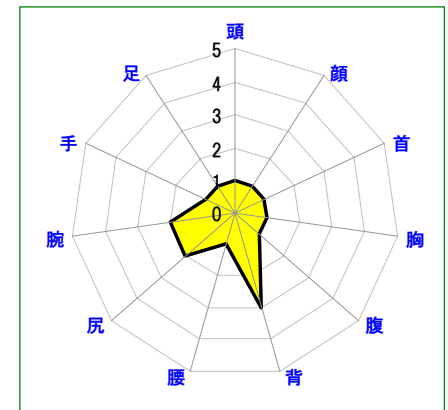


スケールアンケート【自覚症状】

摂取開始前



摂取3ヶ経過後



《症状が強い=5 ~ 症状が弱い=1 ~ 症状がない=0》